

祝 中山中学校創立50周年

11月8日、町立中山中学校の創立50周年記念式典が、同校体育館で執り行われ、佐藤町長、斎藤議長をはじめ多くの来賓客や在校生、学校関係者が出席しました。式典では、生徒を代表して工藤陸くん（3年生）が「中山中学校創立50周年の節目と、多くの先輩方が学んだ校舎から新校舎への移行の年に立ち会えることを嬉しく思う。中山中学校のさらなる発展のため、在校生一同切磋琢磨していきたい」と慶びの言葉を述べ、会場からは盛大な拍手が送



生徒を代表して慶びの言葉を述べる工藤陸くん（3年生）

られました。50年前の中山中学校創立当初は、長崎中学校を東校舎、豊田中学校を西校舎として利用しており、現在の校舎は昭和45年に完成したものです。完成から46年。多くの卒業生がこの校舎で学び、巣立って行きました。たくさん思い出の詰まった校舎ですが、老朽化に伴い安全面などで現在の基準と合致しない部分が見れ始めたため、生徒たちが安全で快適な環境で学ぶことができるよう、校舎改築が決定しました。

新校舎の建設工事は昨年7月から始まり、12月中旬に完成、来年1月より新校舎での生活が始まる予定です。



吹奏楽部による賑やかな演奏も披露されました。



50周年の節目の式典に、生徒たちの表情も真剣です。



第105話 悪疫の流行

中山町歴史散策

「悪疫流行」とか「疫癘」の名は、消化器の流行病の総称で、高熱と激しい下痢を伴う「腸チフス」や「赤痢」などの血便を排泄するものには「傷寒」の名を付しています。「傷寒」の名を付しています。幕末に至って、嘉永3（1850）年、同5（1852）年の大流行では、酒田に3000人も死者が出たと記録されています（「酒田市史」）。

このように、大量の罹患者があり、死者も多いこの疫病に対し、幕府は安政4年9月「コレラ防疫指針」を作成し、全国に配布。防疫に努められた（「東村山郡史」続編巻1 大正12年刊）。

「コレラ」、大阪では「三日コロリ」の名がついた程でした。天保5（1834）年には、秋田で大流行し、発症者5万3000人、村山郡谷地では500〜600人の死者が出たとあります（「河北町史」）。

記録上「疫病」であるものの、死者の数からみてコレラを疑わせる資料は多くみられます。本町の場合は、町内の墓地

【用語の説明】

コレラ：コレラ毒素を産生するコレラ菌によって起こる急性胃腸炎。菌に汚染された水や加熱不十分な魚介類の飲食により感染する。現在では、海外旅行でかかってくる人が大部分である。

※参考 中山町史 中巻 第9章第4節 疫病の流行

楽しく踊って介護予防！ ステージで介護予防事業を発表

11月14日・15日に山形ビッグウイング（山形市）で開催された「やまがた健康フェア2015」に、「シニアるんるん貯筋体操」教室有志の皆さんが参加しました。

中山町で実施している介護予防事業として、同教室で実際に踊っており、参加者にも人気の「長生きサンバ」を披露。サンバの曲調に合わせてリズムカルに体を動かす、日頃の活動内容について発表しました。

会場に訪れた人は、これまでの介護予防運動のイメージとは異なった明るく華やかな雰囲気に興味深そうに見入っていました。

健康な高齢者でも、介護が必要な状態とならないよう、今のうちから予防策を講じ、日々の生活に必要な健康・身体機能を維持していくことが必要です。

今のうちから体を動かすことを心がけ、将来のため、計画的に貯筋しておきましょう。



「長生きサンバ」を披露する「シニアるんるん貯筋体操」教室参加者の皆さん。訪れた人たちも興味深そうに見入っていました。